



大阪部会(第 54 回)

日 時: 2017 年 7 月 15 日(土) 18:00~20:00

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 54 回の大阪部会の出席者は 9 名。

(1)最初に、野間敏克(同志社大学)から、最近の経済教育ネットワークの活動について、各部会の動向報告や、8月の「先生のための夏休み経済教室」への案内があった。また、東京部会で紹介された『明日に使いたくなる公民科授業実践』(東京都公民科・社会科教育研究会編)が回覧された。

(2)大塚雅之氏(三国ヶ丘高校)より、「税と社会保障の実践」と題する授業実践が報告された。まず税に関する授業では、市場メカニズムについて学んだ後、市場の失敗が起きるケースとして公共財を取り上げ、皆に役立つ財(教材ではお掃除ロボット)への資金を自由意志で提供させると「ただ乗り」が生じることを数値例で体感する。その後公共財の重要性と役割を学び、大学授業料をどのようにまかなうのがよいか(有償か無償か、資金は増税か教育国債か、など)について議論させる。その際、様々な立場を想定し、多面的な考察を促し、一連の学習の仕上げとして、新聞社への投書を書かしている。

社会保障に関する授業では、諸外国や日本の社会保障を学んだ後、いくつかの政策(年金支給年齢引き上げ、消費税増税、子育て支援強化など)の優先順位を、まずは個人で、その後グループで配付資料を参考にしながら決めていく。その際、11月および2月の大阪部会でも一部紹介されたように、順位を決めるにあたって重視する観点を挙げ、その後ウェイトまで決めさせるところがユニークである。最後に、各グループでの議論の過程を発表しあう。

細かい点についての質問や意見は出されたが、よく練られた授業案として、「夏休み経済教室」の東京会場で発表されることになっている。

(3)同じく東京会場で発表される山本雅康氏(奈良学園中学高校)より、「18歳選挙権や新科目「公共」を見据えた租税に関するアクティブ・ラーニング型授業の実践」と題する授業報告があった。これは、2月および5月に報告されたものの改訂版であり、授業案、ワークシート、配付資料も添付されている。内容は第53回の大阪部会要旨を参照されたいが、租税についての基本的な考えの整理、そこで養った考え方とふるさと納税制度拡充との関連性などが整理され、「深い学び」につながる授業展開になっている。それに加えて、今回の部会報告では、資料学習やグループ討議を通して、生徒の見方がどのように変化したかも分析されており、非常に興味深い調査結果が得られている。さらに過去のセンター入試問題との関連にまで触れられた。

(4)最後に野間から、野間が担当する夏の経済教室「公民教育の理解の仕方、教え方」の内容について、要望や意見交換を行った。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2017 年 10 月 14 日(土)、時間は 18:00~20:00、場所は未定。